

武器よさらば！

——憲法から見た武器見本市——



安倍首相は憲法審査会を早く開いて自民党の 4 つの改憲案をテーブルに載せようとしています。又、11 月 18～20 日幕張メッセで武器見本市 DSEI・JAPAN が日英共催で催される。このような状況の中“武器見本市”と“憲法”との関係についてのシンポジウムが鎌ヶ谷で開かれました(2019 年 11 月 16 日)。

安保関連法に反対するママの会@ちばの金光さんは、2014 年安倍政権で武器輸出禁止三原則が否定され「防衛装備移転三原則」で武器輸出・共同研究の解禁となって以降の、パシフィコ横浜での MAST・ASIA(2015 年)、2017 年には幕張メッセでの MAST、2019 年今年 6 月 17～19 日またまた幕張メッセで MAST が、そして 11 月 18～20 日にはこれまで以上に拡大された世界中の軍事産業 150 社が集まり商談する DSEI・JAPAN が幕張メッセで行われていることにたいし反対運動を続けてきた思いを語りました。

千葉県が「非核平和千葉県宣言」の中で“戦争という手段によらずに紛争を解決する道を追う”と言っているにもかかわらず、県施設幕張メッセを武器見本市に貸し続けることに抗議し「貸さないで!」と訴えても、なかなか受け入れられない状況に対し千葉県当局を厳しく批判。

「だれの子どももこころさせない」というピンクの横断幕を示し、平和を希求する日本国憲法に違反する武器見本市をなんとかしてもやめさせるため多くの市民の大きな声と行動を起こすよう金光さんは訴えました。

日弁連の宮腰さんは、2012 年自民党憲法改憲草案、2014 年防衛装備移転三原則、集団的自衛権行使を可能とする閣議決定、2015 年安保法制強行採決、2017 年自衛隊加憲案、2018 年自民党 4 項目改憲案、2019 年武器見本市とこの間の動きを示しながら、安倍首相が言うところの積極的平和主義は本来この言葉を使ったノルウェイのガルトウイング博士の思いとはまったく違うことを示しました。

ガルトウイング博士の本来の“積極的平和主義”とは、“戦争をしないだけでなく社会の中の貧困・格差・差別がなく、武力の行使を否定し相互の理解で平和を作っていくこと(positivePEACE)”でありまさに日本国憲法の前文そのものだ。それに対して安倍首相の言う積極的平和主義とは“国際平和に積極的に寄与していく。武力行使を否定しない proactivePEACE”です。この違いをはっきりと把握し対応すべきと訴えました。

又、日本国憲法の基本は“個人の尊厳=個人の尊重”であり、それから導き出された①国民主権②恒久平和主義③基本的人権の保障です。その統治方法が「権力分立」「民主主義」なのだ。日本国憲法の枠組みを示しました。更に、この平和的生存権を含めて市民の権利は“国民の不断の努力”(12 条))によって獲得されていくもの、それゆえの本来の意味での積極的平和主義の実践の重要性を訴えました。

会場からの質疑応答では・・・

Q、安全保障について日本周辺の『脅威』で国民をあおっているのはおかしいと思うが？

答え：軍事に軍事を対抗させるはよくない。一度ぶつかって戦争になればそれを収めるのは困難。その結果は先の戦争を考えれば明らか。



Q、武器見本市を法的に止められないか？

答え(宮腰)：差し止め訴訟のような司法レベルではハードルが高い、難しいのでは…。でも不断の努力は裁判だけでなくもっとやれることがたくさんある。主語として小さなことから「オカシイコトはおかしい」と言うその基礎は市民的センスの“法”であり、この普遍的な法の立場から声を出していくことが大切。

*日本国憲法の平和主義・国民主権・基本的人権を守っていくのも不断の努力でありその要は個人の尊厳の尊重…それゆえ人を殺す武器で儲ける武器見本市を開かせることは絶対に許せないということがよくわかるシンポジウムでした。

“武器見本市はおことわり”

千葉県施設である幕張メッセで、またまた6月のMASTに続いて陸海空の大規模な武器見本市“DSEI・JAPAN”が開催されました(2019年11/18~20)。11月18日には410名ほどの市民が集まり展示会場前の広場で抗議の声を上げました。“武器は要らない(NO! Weapons)”“武器見本市はお断り”“戦争反対”とのコールと、“人間の鎖”“ダイイン”と参加者一人ひとりが反対の意思をはっきりと示しました。

展示会場に入場できた方の報告では、6月のときよりも多くの国が参加(150社)、パレスチナで多くの市民を虐殺したイスラエル軍企業も参加。米英仏独そして日本の企業の武器も展示され、交渉もされていたとのこと。

広場では参加者からの発言が…

東電原発事故による子どもの被曝への支援の活動をしている崎山さんは日本国憲法前文を示しながら“こんな戦争の道具となる武器を売ったり買ったりする武器見本市をやらせる日本政府も、場所を貸し出す千葉県もおかしい”と厳しく批判。韓国からの市民は「私は戦争に反対し韓国で徴兵を拒否して牢屋に入れられました。戦争に反対し、武器の売買に韓国でも反対しています」と。

ママの会の金光さんは、「日本国憲法・9条の平和主義からも日本政府は本来世界のどこで開催されても武器見本市には反対すべきなのに今回も後援している。千葉県は非核平和千葉県宣言をしているのに人を殺し殺される戦争の道具である武器見本市のための会場を貸している」と問題点を指摘。

日本は1945年敗戦で、朝鮮・中国そして東南アジアへの侵略と米欧州列強との軍拡競争(戦争)の誤りを知ったはず。日本国憲法で国民主権と絶対に戦争をしない、だから陸海空軍の軍備を持たないとの平和主義を世界に向かって宣言したはず。武器輸出禁止三原則もあつたはず…でも今、武器の生産・輸出・輸入による一大軍需産業を作ることが安倍政権の“経済の成長戦略”に。集团的自衛権行使も出来るとする安保法制の強行成立で毎年5兆円以上の軍事予算が組まれ専守防衛を飛び越した軍備の増強が…それを推し進める経済界・防衛関係者=死の商人の集まりがメッセでの武器見本市です。

“日本の国是は戦争放棄の平和主義”と国民が胸を張って言えるような社会にしていきたいと思います。



“民主主義と自治そして平和主義”

ふじしろ政夫 047-445-9144

*活動報告はホームページに掲載。「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。